

山あいを流れる川で乱れ飛ぶゲンシホタル―兵庫県佐用町内(約3分間露光)



蛍光再び、町民に勇気

豪雨から4年、佐用の川

2009年8月の兵庫県西・北部豪雨以降、激減していた佐用町のホタルが、町内各地の河川に戻ってきた。水害から4年の夏。ほのかな命の瞬きが、町の住民に大きな勇気を与えている。

町内の旧上月町が1961年に「ほたる保護条例」を制定。ホタルのいる環境を守ってきた。しかし、4年前の豪雨と復旧工事で、夏の風物詩は激減し、水害の翌年はほぼホタルが見られない地区もあったという。

現在の河川改修工事は、ホタルが卵を産み付けやすい護岸を設けるなど生息環境に配慮。住民も保護活動に力を入れ、今年は水害前と変わらない光景を取り戻した。

同町金子集落で保護活動が続ける「矢原山ホタルむら」村長の大西茂さん(61)は「川べりの生息環境が戻ってきた」と感慨深げだった。

(大山伸一郎)

(C)神戸新聞社 無断転載 複製および頒布は禁止します。

①佐用町のホタルはなぜ減ってしまったのですか。

②ホタルが戻るよう、町や住民はどのような取り組みをしましたか。

③この記事を読んでどう思いましたか。感想を書きましょう。

調べてみよう！

- ・ホタルが卵を産み付けやすいのはどんな護岸ですか？
- ・2009年の兵庫県西・北部豪雨による被害は？

学校名() 年 名前()